

## 安全データシート

SDS No. 13106

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：	オキシノン H-106
供給者の会社名称：	栗田工業株式会社
住所：	東京都中野区中野四丁目10番1号 中野セントラルパークイースト
担当部門：	品質保証部
電話番号：	03-6743-5020
メールアドレス：	kwi_chemisds@kurita-water.com
記載内容問合せ先：	末尾記載の「問合せ先」にご連絡ください。
緊急連絡先：	クリタ北海道㈱
緊急連絡先電話番号：	0123-25-3450
推奨用途：	水加ヒドラジン系脱酸素剤

## 2. 危険有害性の要約

## 化学品のGHS分類

健康に対する有害性	
急性毒性（経口）	区分4
皮膚腐食性／刺激性	区分1（A、B、Cを含む）
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分1
皮膚感作性	区分1
生殖細胞変異原性	区分2
発がん性	区分1（1A及び1B）
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分1
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分1
環境に対する有害性	
水生環境有害性 短期（急性）	区分3
水生環境有害性 長期（慢性）	区分3

## GHSラベル要素

## 絵表示



## 注意喚起語

## 危険有害性情報

危険  
飲み込むと有害（経口）  
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷  
重篤な眼の損傷  
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ  
遺伝性疾患のおそれの疑い  
発がんのおそれ  
臓器の障害  
長期又は反復暴露による臓器の障害  
長期的影響により水生生物に有害

## 注意書き

## 安全対策

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
保護手袋および保護眼鏡、保護面を着用すること。  
汚染された作業着は作業場から出さないこと。  
使用前に取扱説明書を入手すること。  
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
環境への放出を避けること。

## 応急措置

皮膚に付着した場合：汚染された衣類を全て脱ぎ取り除き、皮膚を流水等で洗うこと。  
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。  
眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズが容易に外せる場合には外すこと。  
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。  
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
直ちに医師に連絡すること。  
このラベルの指示に従った特別処置が緊急に必要である。  
皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。  
ばく露またはその懸念がある場合は、医師の診断、手当てを受けること。  
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。  
確実に保管すること。紛失・盗難に気をつけること。  
保管  
廃棄 都道府県の認可を受けた廃棄物処理業者に委託して廃棄すること。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：	混合物		
<b>化学名又は一般名</b>	<b>化学式</b>	<b>含有量(%)</b>	
触媒 ヒドラジン-水和物	非開示 N <sub>2</sub> H <sub>4</sub> ・H <sub>2</sub> O	非開示 10~20	
<b>化学名又は一般名</b>	<b>化審法番号</b>	<b>CAS No.</b>	<b>安衛法番号</b>
触媒 ヒドラジン-水和物	非開示 1-374	非開示 7803-57-8	

## 4. 応急措置

## ◆情報◆

吸入した場合	液体品であり吸入によって急性毒性を起こすほどの危険性は少ない。 多量に吸入すると、吐き気・呼吸困難を起こすことがある。 空気の新鮮な場所に移し、安静・保温に努め、速やかに医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	皮膚に付くと炎症を起こすことがある。 触れた部位を、多量の水で洗い流す。 汚染した衣服は直ちに脱ぎ、衣服と皮膚に付着した薬品を、多量の水で洗い流す。
眼に入った場合	炎症、痛みなどが残れば、医師の手当を受ける。 眼に入ると、刺激を与え痛みを起こすことがある。
飲み込んだ場合	直ちに、流水で15分以上洗眼し、その後必ず医師の手当を受ける。 口・のど・胃を腐食し、嘔吐・腹痛・下痢などを起こす。 直ぐに医師の治療を受けて下さい。もし飲み込んだ場合は、医師の指示があるまで無理に嘔吐させない。

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤 使ってはならない消火剤 特有の消火方法	情報なし 引火点はないが、高温にさらされると、ヒドラジンなどの有害ガスを発生することがある。 火元から遠ざけるか、移動が困難な場合は水で冷却すること。
----------------------------------	---

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法及び機材	項目7および8を参考に、適切な保護具（防塵マスク、ゴム製手袋、保護メガネ、エプロン等）を着用すること。 海・河川等への排出による環境への放出を避けること。 危険でなければ漏れを止める。少量の場合、ウエス・雑巾等によく拭き取り適切な廃棄容器に回収する。
漏出時の措置	大量に漏洩した場合は、できるだけ容器に回収する。 少量の漏洩の場合はウエスで拭き取り、水で洗い流す。拭き取ったウエスは水でよく洗った後廃棄する。（そのまま放置すると発火することがある。）

## 7. 取扱い及び保管上の注意

<b>【取扱い】</b>	吸い込んだり、眼・皮膚に触れないように、保護マスク・保護眼鏡・長袖の作業衣・ポリ塩化ビニル製あるいは合成ゴム製の手袋等を着用して作業すること。 薬注タンク等はフタをし、薬品の薬注タンクへの移し換えには移送ポンプを使用する。 できるだけ屋外等の通気性の良い環境で作業する。 連続的にばく露される可能性の高い作業環境では局所排気装置等を設置し、換気をよくする。 酸との混合を避けること。 使用済みの容器を飲料用、その他の用途に使用しないこと。
技術的対策 安全取扱注意事項 接触回避	情報なし 情報なし 情報なし
<b>【保管】</b> 安全な保管条件 安全な容器包装材料	使用時以外は直射日光を避け、換気のある冷暗所に密閉保管する。 情報なし 情報なし

## 8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度	ヒドラジン-水和物 日本産業衛生学会（2009年） ACGIH（2009年）	0.21mg/m <sup>3</sup> 0.1ppm 設定されていない
------	--	--

(ヒドラジンとして；  
日本産業衛生学会 (2009年) 0.1 ppm 0.13 mg/m<sup>3</sup>  
ACGIH (2009年) TLV-TWA 0.013 mg/m<sup>3</sup> 0.01 ppm )

管理濃度	(注) TLV-TWA：1日8時間、1週間40時間の労働時間内の時間荷重平均暴露許容濃度の勧告値 ヒドラジン-水和物 設定されていない
設備対策	(ヒドラジンとして、労働安全衛生法第28条3項に基づく、基発第0331008号(平成18年3月31日)に基づく管理濃度：0.13mg/m <sup>3</sup> ) 管理・許容濃度以上の作業環境では局所排気装置を設置する。
保護具	保護マスク着用 ポリ塩化ビニール製あるいは合成ゴム製の手袋着用 保護眼鏡着用 長袖の作業衣着用
呼吸用保護具	
手の保護具	
眼及び／又は顔面の保護具	
皮膚及び身体の保護具	

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	無色～淡黄色
臭い	アミン臭
融点／凝固点	-5℃以下
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び上限界／可燃限界	上限界：データなし 下限界：データなし
引火点	なし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	11.1～12.1 (20℃)
動粘性率	データなし
粘度	未測定
溶解度	データなし
n-オクタノール／水分配係数 (log値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度 (比重)	比重：0.99～1.03 (20℃)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
CO DM n量	4.4% (参考値)
全窒素含有量 (T-N) %	7.9 (参考値)
全リン含有量 (T-P) %	0.1以下 (参考値)

## 10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	情報なし
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	情報なし
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	情報なし

## 11. 有害性情報

急性毒性	LD50：ラット（経口）：1200mg/kg以上（成分からの推定値） （GHS分類）区分4となる。
皮膚腐食性／刺激性	皮膚に付くと炎症を起こすことがある。ヒドラジン-水和物の厚生労働省分類により（GHS分類）区分1となる。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	眼に入ると、刺激を与え痛みを起こすことがある。ヒドラジン-水和物の厚生労働省分類により（GHS分類）区分1となる。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	ヒドラジン-水和物の厚生労働省分類により（GHS分類）区分1とした。
生殖細胞変異原性	ヒドラジン-水和物の厚生労働省分類により（GHS分類）区分2とした。
発がん性	ヒドラジン-水和物の厚生労働省分類により（GHS分類）区分1Bとなる。 ヒドラジンは、IARC (国際癌研究機関) で「グループ 2A」にランク付けされている (IARC 115 (2018))。
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	ヒドラジン-水和物の厚生労働省分類により（GHS分類）区分1とした。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	ヒドラジン-水和物の厚生労働省分類により（GHS分類）区分1とした。
誤えん有害性	データなし
その他の有害性	ヒドラジン：労働省から、「変異原性が認められた化学物質」として告示された。 (基発第341号)

(注) 「変異原性が認められた化学物質による健康障害を防止するための指針」は、  
労働者への暴露を低減するため、必要に応じて作業環境の改善や保護具の

使用、  
暴露時間の短縮等の措置をより徹底するために示された。

## 12. 環境影響情報

生態毒性	LC50：ヒメダカ(24)時間：50mg/L (GHS分類) 区分3となる。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	直接排水溝には絶対流さないこと。 産業廃棄物処理認定業者に委託して処理すること。
汚染容器及び包装	関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。産業廃棄物処理認定業者に委託して処理すること。

## 14. 輸送上の注意

国連分類・国連番号	国連分類：756.1 国連番号：3293
容器等級 その他	III 容器が破損しないようにし、水ぬれや乱暴な取扱いを避ける。

## 15. 適用法令

消防法	該当なし	
毒物及び劇物取締法	該当なし	
化学兵器禁止法	該当なし	
輸出貿易管理令	該当なし	
労働安全衛生法	該当あり	法 第57条の2 通知対象物 基発第0331008号、基発第0331009号「安衛法28条第3項に 8条第3項「技術上の指針の公表」 基発第341号 労働省通達（変異原性が認められた追加化学 物質）」
ヒドラジーン水和物 基づく健康障害を防止するための指針（安衛法第2 物質） ヒドラジーン水和物		法 第57条 名称等を表示すべき有害物
船舶安全法	該当あり	危告示 別表第1 毒物類
ヒドラジーン水和物		
航空法	該当あり	爆告示 別表第1 毒物
ヒドラジーン水和物		
港則法	該当あり	港危告示 別表 毒物類(毒物)
ヒドラジーン水和物		
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	該当あり	令別表第1の該当する号の番号 333 ヒドラジンとして 第一種 指定化学物質
ヒドラジーン水和物 該当する。 ヒドラジーン水和物		
化審法	該当あり	旧法 第三種監視化学物（但し、「旧法」の記載がある項目に 旧法 第二種監視化学物質（但し、「旧法」の記載がある項目 法 第2条第5項 優先評価化学物質 通し番号 2 ヒドラ ジンとして該当する。
ヒドラジーン水和物 については、現行の化審法に該当しません） ヒドラジーン水和物 については、現行の化審法に該当しません） ヒドラジーン水和物 ジンとして該当する。		
水質汚濁防止法	該当あり	令第三条の三 指定物質 ヒドラジンとして該当
ヒドラジーン水和物		
港則法	該当あり	港危告示 別表 毒物類(毒物)
その他		PRTR法該当のヒドラジン(CAS No. 302-01-2)としての含有率は 9.0%である。

16. その他の情報

本製品は、環境ホルモン物質(環境省「環境ホルモン戦略計画S P E E D' 98」(2000年11月版)表3-1記載の65物質群)を含有していません。

記載内容は、本シート作成時に入手可能な資料、情報、データに基づいておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証を成すものではありません。  
この情報は、新しい知見に基づき改訂されることがあります。  
また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。  
本シートは、日本国内法規を基準に作成したものです。

以上

\*記載内容問合せ先

本社	03-6743-5000
大阪支社	06-6228-4800
東北支店	022-225-6331
名古屋支店	052-203-2851
広島支店	082-221-4471
福岡営業所	092-472-0911